

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀市立勸興小学校		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である						
1 前年度 評価結果の概要		・全ての学級担任が研究授業「体育：体づくり運動」「自立活動」を実施した。また、学習状況調査結果の分析を全職員で行い、誤答傾向から課題解決に向けた具体的取り組みを考えマイプランに記述し、達成基準を超えることができた。 ・学期毎に多読者を称賛し、図書館利用促進を図った。全児童の約75%が、各学年の目標を達成できた。 ・毎月の便りで規則正しい生活習慣の大切さを啓発したが、全校に実施した生活チェックの結果、早寝ができてしていると自覚している児童は全体の5割程度にとどまった。								
2 学校教育目標		豊かな心で 勸興魂の実現をめざす 子どもの育成 勸興魂「勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで」								
3 本年度の重点目標		①学力向上の推進 ○つきたい力を明確にした授業 ○自ら学び続ける授業への改善 ○知識・技能の定着 ○問題解決型学習の推進 ○学習規律確立、家庭学習充実 ○すき間読書の奨励 ②豊かな心の育成 ○基本的生活習慣の確立「凡事徹底」あいさつ、くつ・スリッパ揃え、整理整頓、無言掃除、立腰 ○支持的風土にもとづく学級経営 ○いじめを見逃さない土壌づくり ○ボランティア活動の推進 ③特別支援教育の充実 ○個に応じた指導の充実 ○自己有用感の醸成 ○自尊尊重意識の醸成 ○UD化の推進 ○特別支援学級の充実 ○通級指導教室の活用								
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	B	・マイプランの成果指標を達成した教師80%	B	・マイプランの成果指標を達成した教師81%	A		・子供の興味を引く教え方、多方向からの教えが必要である。 ・学習状況を把握して課題解決に取り組まれた。 ・児童の状況に応じて対応している。 ・80%が達成レベルとしては低いという意識を評価します。 ・マイプランは各人で異なるので評価が難しい。	まなびあい部
	○伝え合う力を高める授業実践	○学習指導要領解説を読み込み、解説書の授業実践を学期に1回以上行う教師80%以上	A	・学習指導要領をもとに、効果的な授業実践を行った教師100%	A	・国語科の授業を中心に、指導法改善を行った教師100% ・講師を招聘し、指導法改善のための研修を2回行った。	A		・数多くのケースバイケースの指導法の知識が必要である。 ・課題解決に向け研修を行い、指導法を改善されていた。 ・指導要領に記された通り実践されている。 ・言語・文章を読み解く力は、すべてに共通する課題です。 ・国語は大事な教科で、指導法改善及び研修をされている。	まなびあい部
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○異学年縦割り活動(はと活動)時に、自他を尊重・思いやり・社会性・倫理観・正義感の観点での振り返りタイムを毎回確保する教師70%以上	A	・活動の終わりに必ず振り返りの時間を設けている教師100%	A	・児童同士の関わりが活発になり、異学年の交流が増えた。関わりの場面が増えたことで、思いやりの言葉や行動がたくさん見られ、その都度称賛することができた教師が80%	A		・家族で、学校の一定の決まりやマナーを知り実践させるべきである。 ・児童間の相手思いやる心を育てたい。 ・はと活動が確立している。 ・新型コロナ禍の中でも頑張っていると思います。 ・児童同士の関わりが活発になり、異学年の交流が増え、思いやりの言葉や行動が見られることに対して教師は100%を！	ふれあい部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月1回児童と保護者アンケートを実施し、気になる記載には、必ず複数担任で対応する教師80%以上	A	・児童の気になる言動や保護者からの相談があった場合、複数担任、管理職と相談しながら指導を行う。日頃から児童の小さな変化を注視し、いじめの未然防止に努める。	A	・月1回実施アンケートの気になる記載や事案があったとき、複数担任で対応している教師100%	A		・心の教育は難しから時間をかけて行うしかない。 ・課題を共有され解決に取り組まれた。 ・1次予防だけでなく、2次3次予防の概念を含めてほしい。 ・一人一人に目配りされ、素早い対応がなされている。	ひびきあい部
	○礼儀を尊重する教育活動	○「ありがとう」のお礼の言葉が言え、立ち止まって朝のあいさつができる児童80%以上	C	・お礼の言葉が言え、立ち止まって朝のあいさつができる児童55.3% ・朝のあいさつができる児童を1日3人以上を称賛している職員44.8%	B	・立ち止まって朝のあいさつが「よくできた」「できた」と回答した児童が85.9% ・朝のあいさつができる児童を1日3人以上を称賛している職員63.6%	B		・自然にできるようになつたらい。相手も気持ちがいい。 ・中間評価が大きく伸びた。目標80%を目指してほしい。 ・よく挨拶してくれる。 ・挨拶は人間生活の基本、潤滑油であると意識させてほしい。 ・子供は褒めて育てることが重要である。	ひびきあい部
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●学校の授業以外の時間で遊びや運動を行う時間が、5日間で300分以上の児童70%以上	C	・学校の授業以外の時間で外遊びや運動を行う時間が5日間で300分以上の児童が、38.3% ・全校朝会で外遊びの呼びかけ	C	・学校の授業以外の時間で外遊びや運動を行う時間が5日間で300分以上の児童が37.3% ・冬にかけて外遊びする児童がわずかに減った。	B		・たまには遊びすぎて勉強しなかったらら体を動かすのもいいのではと思う。 ・コロナ禍で外出しない時間が多かったのではないかとと思う。 ・目標値が高い中では運動ができています。 ・1日に60分という時間はハードルが高いと感じる。	ひびきあい部
	○体づくり運動を取り入れた体育授業の実践	○80%以上の体育の授業で、体づくり運動を取り入れる。	A	・主運動につながる運動遊びを取り入れている。	A	・主運動につながる運動遊びを授業に取り入れている授業者100%	A	・元気に怪我をしないほどに頑張らせる。 ・遊びを授業に取り入れることは児童の心身によい。 ・コロナ対策をしながらかよくやっていただきました。 ・授業に取り込んだ運動遊びの時間を前項に加算できないが、身体づくりの重要性を認識されている。	ひびきあい部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	C	・全職員の時間外勤務時間平均50.84時間 ・定時退勤日(金曜日)の実行率低下傾向 ・夏休3日間は全職員取得 ・連絡会及び会議の時間短縮実行	B	・全職員の時間外勤務時間平均49.53時間 ・定時退勤日(金曜日)の実行率やや回復 ・電子掲示板を活用した校内連絡増	B	・緊急時対応できる人員がいればいいが。 ・先生は動きすぎです。 ・新しい生活様式になり、児童数も多く大変だったと思う。 ・9つ目の職員室の机上の整理整頓がされているので、ちょっと努力すれば時間外勤務は改善できると思う。	管理職	
	○業務をスムーズに推進するための職員室の整理・整頓	○毎週金曜日に机上の整理・整頓を行う教師80%以上	A	・職員室机上の整理整頓週1回実施職員86.2% ・机上に紙文書が広がらない工夫(箱の設置等)をしている職員増	A	・職員室机上の整理整頓週1回実施職員96% ・机上はPCのモニターより低くする意識が浸透し、机上に紙文書が広がらない工夫(箱の設置等)をした職員増	A	・限られた時間の中でよく整理整頓ができている。 ・整理整頓は日々の課題。片付けていない机＝脳内も雑然である。 ・職員室の机上が整理整頓清掃がなされている。	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
◎夢や目標を考える学習の推進	◎勸興のよさを誇りに思い、自分の将来像を描く児童の育成	◎『勸興読本』や地域教材で学び、自分自身の夢や目標について考える学習を行う教師80%以上	B	・コロナ禍でも可能な地域学習の単元開発、9月より実践開始 ・勸興まつりの機会を活用して、学習発表実施	B	・継続実施(2年じゃがいも作り、昔あそびクラブ)、新たに実施(3年認知症サポーター養成講座、5年地域の防災)、コロナ禍で中止(1年昔あそび交流会、3年かさざき学級)	B		・子供向けの講演会を望む。 ・地域と学校の連携を公民館も支援し繋がりを大切にする。 ・しっかりやっていただきました。 ・生きる知恵と市民力を地域の中から学んでください。 ・勉強以外の教育も重要であり、Aを目指しましょう。	教務主任 各教科主任
○特別支援教育の充実	○支援を要する児童の情報交換と支援の方法の研修充実	○木曜日の情報交換会で、情報を共有し指導に生かす教師90%以上	A	・研修会を年間を通して計画(4月・7月実施済、12月に3回目を計画) ・毎週木曜日放課後の情報交換実施 ・チェックシートは個別の指導計画に添付済	A	・研修会は4回実施(4月、7月、12月、1月) ・毎週木曜日情報交換実施。気になる児童の記録時間確保と状況や対応の共通理解ができた。次年度への引き継ぎ2月中に作成。	A		・案がないとできない。 ・情報交換を密にされ、共通理解ができている。 ・毎週情報交換及び気になる児童の共通理解をなされている。	特別支援教育コーディネーター
○複数担任制の活用推進	○複数担任制による学年経営・特別支援学級経営の充実	○自学級以外の児童と関わる教師100%	A	・日常的な交換授業と合同授業により自学級以外の児童と関わる教師100% ・生活指導事案及び保護者相談時の複数担任対応実践教師100%	A	・日常的な交換授業と合同授業により自学級以外の児童と関わる教師100%継続 ・生活指導事案及び保護者相談時の複数担任対応実践教師100%継続	A	・すばらしい。複数担任で学級経営を確認して指導されている。 ・形を整えるだけでなく、中身の充実も図ってください。 ・当該の特徴である、複数担任制の効果だと思います。	学年主任	
5 総合評価・次年度への展望		●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・国語科を要として思考量を増やす授業改善に取り組んだ結果、児童が主体的に学ぶスタイルが構築できつつある。 ・毎月1回児童及び保護者アンケートを継続し、アンケートに記述された事案には複数担任で対応し、早期発見・早期対応するとともに、いじめの予防に努めることができた。 ・学校の授業以外の遊びや運動を行う時間が5日間で300分以上の児童は40%弱にとどまった。目標値の見直しを行うとともに運動習慣の二極化の改善を目指していく。								